こどもChannel

みる　きく　あそぶ　かんがえる

「今」を生きる子どもたちと、
かつて子どもだった
大人たちを
つなぐ情報誌。

発行：認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター　URL：http://childnpo.com

2017 59号

特集

子どものチ・カ・ラ11

“さよなら”からはじまる、いとなみ

今年のゴールデンウィークのこと。昔々、私がはじめて児童養護施設の指導員として養育に関わったY君が、妻子を連れ11年ぶりに福井に里帰りしてきた。彼は当年38歳、遠く北海道の地でトラックドライバーとして頑張っているという。地元の和食屋で、初めて会った彼の大切な家族といっしょに山海の幸を楽しんだ。

「今、何歳？」…彼の愛し子に尋ねると、「4歳！」と指を立てながら答える。「お父さん、お母さんは好き？」と聞くと、「大好き！」と父母を見やり、少々はにかみながら返してくれた。そんな何気ない、温かな家族の団らんの只中に在りながら、私はふと彼の中学時代を思い出していた。

「俺、修学旅行には行かんわ！」…Y君が突如、そんな無茶を言い出したのは、中学の修学旅行に出発する、まさにその日の朝一だった。急遽、学校のクラス担任の先生も駆けつけ、話し合いが始まった。「一緒なグループに誰か嫌な奴がいるの？」「仲間外れにされているの？」…首を振り、押し黙り続けるY君…だったが、約一時間に及ぶ大人たちの説得が功を奏したのか、ただ単に根負けしたのか、どうにかこうにか彼は渋々、担任の車に乗って集合場所に向かってくれた。

懸案の修学旅行から戻り、Y君に普段の穏やかさが戻った頃を見計らって、私はあらためて修学旅行を拒絶した理由を聞いてみた。彼の口からは、「ディズニーランドに行きたくなかったから…」と、意外な言葉がポツリ。続けて「お父さんとお母さんと最後に行った場所が、あそこやったから…」。うつむきがちに答えてくれたY君に対し、「辛いことを思い出させてごめんな。教えてくれてありがとう。」…新米指導員だった私は、それ以上言葉を紡ぐことができなかった。

ケース記録によると、サラ金に追い詰められた彼の両親は、当時4歳の彼を祖父母宅の軒下に置き去りにし失踪したという。置いてきぼりにされた事実を知る由もないY君は、値札の付いたミッキーマウスのぬいぐるみを大事に抱きしめていたと記されている。以来、彼は一度も両親に会っていない。だから、Y君にとってのディズニーランドは、両親との最後の記憶が留まる、かけがえのない思い出の地だったのだろう。…そうして、そう、そうだ…彼が家族と離れ、ぬいぐるみを抱えて施設に入所してきたのは、今まさに目の前で無邪気に微笑んでいる、この幼子の齢だったのだ…と気付いた。

大切な人との“さよなら”を経験し、途方もない悲しみを背負いながら、子どもたちは児童養護施設に入所してくる。そして持て余すほどの不安と緊張を抱えながら、彼らは新しい暮らしを始める。児童養護施設とは、そんな子どもたちと、彼らを支援したいと願う大人たちとの迷いと揺れと畏れに満ちた共同生活の場なのだ。それゆえ、そこでの暮らしは、互いにほんの少しずつ“溶け合い、育ち合い、癒し合う”時間の重なりに他ならない。

あれから幾年月、自分の力で家族を創り、守り、育て、誇らしげに故郷に凱旋してきたY君の勇姿を見て、あらためて児童養護という“いとなみ”の本分を教えてもらった気がした。

（一陽　橋本 達昌）

こどもChannel 59号　2017年6月1日発行（年3回発行）　通巻第59号

インフォーメーション・クリップ　子どもNPOセンター Information Clip

講演　チャイルドラインから見える子どもたち



「チャイルドラインから見える子どもたち」をテーマに、ふくいチャイルドライン室長 谷内由美子が講演をします。地域の団体やPTAなどで“子どもの今”を一緒に考えてみませんか。

おはなしぶくぶく



おはなしぶくぶくはお母さん達のグループです。福井市を中心に保育園、子ども園、公民館、児童クラブなどで人形劇や紙芝居を上演しています。毎年呼んでくださるところでは私たちと一緒に歌や手遊びをしてくれます。子ども達の笑顔と笑い声が何よりの励みになっています。今年度もたくさんの子ども達に会えるのを楽しみにしています。

28年度 公演実績

わかば児童クラブ
ひまわり児童クラブ（春江）
やわらぎ木田子ども園
大安寺公民館
神中子どもセンター（鯖江）
野向保育園（勝山）
福井南特別支援学校
社北子ども会

公演依頼はお気軽に事務局まで

認定NPO法人 福井県子どもNPOセンターにご支援ください。

子どもNPOセンターは、国際条約でもある「子どもの権利条約」に沿って子どもの最善の利益を考えて日々の活動をつないでいます。

A. 賛助会員
子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動を支援する会員。
- ●個人　一口年額／ 5,000円
- ●団体（法人）　一口年額／10,000円

B. ボランタリー会員
子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動にボランティアとして協力・参加する個人。
- ●個人　一口年額／ 1,000円

C.一般寄付も受け付けています。

入会方法

郵便振替の通信欄に、
❶住所 ❷氏名 ❸電話番号
❹会員の種類（左記ABCいづれか）
❺口数 を記入してお振込みください。

郵便振替
00770-1-45546
福井県子どもNPOセンター

◎税制上の優遇措置について

「認定特定非営利活動法人」へのご寄附や、正会員以外の年会費等は、下記のような税制上の優遇措置（寄附金控除）が受けられます。ぜひご利用ください。

❶個人のご寄附
【所得税】（寄附金の合計額－2,000円）×40%が税額控除されます。[上限：所得税額の25%]
【住民税】自治体によって異なります。お住まいの自治体にお問い合わせください。
【相続税】相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に寄附した場合、寄附をした財産には相続税が課税されません。

❷法人のご寄附（法人税）
認定特定非営利活動法人への寄附金の特別損金算入限度額が改正されました。(2012/4/1)
{(資本金×（当期の月数÷12）×0.375%)＋(所得の金額×6.25%)}

※詳細については、最寄りの税務署にお問い合わせ下さい。また、国税庁のウェブサイト（国税庁＞申告・納税手続＞認定NPO法人制度）でも手続きの詳細が掲載されています。

団体正会員

鯖江子ども劇場	〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20 鯖江市民活動交流センター内
小浜子ども劇場	〒917-0231 小浜市国分50-9 TEL.0770-56-2867
勝山子ども劇場	〒911-0811 勝山市片瀬町1-402 勝山市民活動センター内 TEL.0779-87-1011　FAX.0779-87-1022
NPO法人 福井芸術・文化フォーラム	〒910-0019 福井市春山2-7-1（福井市文化会館内） TEL.0776-23-6905　FAX.0776-23-7905

福井県子どもNPOセンターを支援しています。

- ●有限会社アドヴァンス近信
- ●大久保リースホームビル株式会社
- ●太田木材株式会社
- ●大月産婦人科クリニック
- ●片山整形外科
- ●上屋敷工業株式会社
- ●医療法人嬌正歯科誠クリニック
- ●学校法人 福井仁愛学園
- ●スクエアパーク
- ●造家屋
- ●つちだ小児科
- ●ネッツトヨタ福井株式会社
- ●バルーンギフト館
- ●光タクシー有限会社
- ●広瀬病院
- ●福井県映画センター
- ●まきレディースクリニック
- ●ミエリ デザイン
- ●三井皮膚科医院
- ●山内整形外科
- ●有限会社山下燃料
- ●りつこ山野流着装教室
- ●六感デザイン

Salt & Pepper ソルト&ペッパー

社会人の甥っ子が帰省した。洒落っ気もなかった濃淡ザグザグ頭の彼が「給料をもらう身になったし」と、パーマをかけていた。いつも自分流に会話やひとり言を続ける彼が、4月よりJKとなったわたしの娘の話に、包容力のある優しい空気で淡々と耳を傾けている。彼は初々しく素敵な大人になっていた。数年後には娘も同じような空気をまとえるヒトになればと、今日もわたしは子ども達の成長に励まされている。(sugar)

子どもNPOセンターのロゴができました。

記事、情報に関するお問い合わせは福井県子どもNPOセンターまで

認定NPO法人
福井県子どもNPOセンター

〒918-8106 福井市木田町36-1コーポ木田201号
TEL.0776-97-8460　FAX.0776-97-8461
E-mail childnpo@muse.ocn.ne.jp
URL http://childnpo.com　始めました



企画・編集／福井県子どもNPOセンター　デザイン／六感デザイン

Take Free【無料】

うめだ演劇工房 演劇キッズ2016

子どもゆめ基金助成事業

報告

演劇キッズ2016をふりかえって










■発表：3月5日（日）　■会場：響のホール　■観客：132人
■練習：7月～2月（全18回）　■講師：梅田美千代氏・鴈田静佳氏

講師　梅田美千代

「女優になりたい」「声優になりたい」「ミュージカルに出たい」「大きな声で発表ができるようになりたい」等々、熱い参加目的を持って集まってきた県内の22名のキッズは、みんなで響ホールでの発表を目指すことになりました。迎える私たちは「自己肯定感、他者との認め合い、達成感などを仲間との演劇づくりを通して育む」という目的のもと楽しい演劇づくりを目指しました。
劇中で合唱する歌詞をみんなで作る、セリフを考える、その意味や気持ちを考えて役作りをする･･･など大人から一方的に与えられるだけでなく、キッズ自身が考えて作る劇づくりをしました。エンディングの合唱シーンではキッズが互いに育ち合った姿がきっと皆さんには見えたことと思います。

アシスタント講師　鴈田静佳

全て演じ終わり舞台袖に戻ってきたキッズの顔が今でも思い出されます。皆キラキラしていて達成感や安堵感、とても良い表情をしていました。遠慮がちに小さな声で名前を言うキッズに、初めて会った日の事がとても懐かしく思えます。舞台に立つまでの過程で仲間とコミュニケーションをとりながら考えて、感じて、頑張った事は全て大きな力となっているので自信を持って、前へ進んで欲しいと思います！
（開演直前に裏でほぼ全員が自分の手に（人）と書いて、必死に飲み込んでいる姿は、とても愛おしく感じました。）

作曲・歌指導　河原知佳

ひとりひとりの感性とそこから生まれる歌声のハーモニーに心揺さぶられました。ひとりひとりの言葉でつくられている共鳴共振はもとより、メロディーラインにイメージを上手にのせてとても素晴らしいハーモニーが生まれました。そして、さらに本番のステージ上の「歌の舞台」では劇中での人物として歌って出てくる音色をその歌声に感じ、劇のストーリーの結びの色として、最高の演奏に感じました。本当に素晴らしい演奏でした。

予告

［演劇キッズ2017］6月17日スタート！ 参加者募集中

福井県しあわせ福祉資金助成事業

大人が学びあう講座

虐待防止活動 ～知ってほしい現状と課題～

報告



子どもNPOセンターではこれまで主に被虐待児の保護やリハビリという観点で児童相談所や保護施設の職員や専門家を講師に招いて研修をしてきましたが、今回はそれに加えて、母子保健の立場で虐待が疑われる家族に関わっておられる愛知県半田市の保健師・間瀬さんのお話を伺いました。火傷を手当しないまま化膿して腕中に拡がった写真は衝撃でしたが、どんなにひどいことをされても子どもは親が大好きで離れたがらないそうです。保健師さんは子どもを保護するだけでなく家族を再構築するという大変な作業をしておられるのだと痛感しました。気になることがあっても通報を躊躇してしまうという参加者の質問に、交通事故を見たらすぐに119番にかけるでしょう、それと同じですよ、といわれたのがとても心に残っています。
また、虐待をテーマにした「わたし生きてていいのかな」の上映会を2ヵ所で実施しました。この上映会の反響は大きく5月には福井市日之出地区と円山地区の民生委員、児童委員協議会で取り組むことになりました。



■講演会

日時	講師	会場	参加
11月13日（日）14時～16時	新井 康祥氏（あいち小児保健医療総合センター心療科）	福井県立大学企業交流室	32名
12月3日（土）14時～16時	浜崎 裕太氏（児童養護施設一陽 療育支援室長）	福井県立大学企業交流室	30名
1月28日（土）14時～16時	間瀬 小夜子氏（愛知県半田市保健センター 母子保健）	地域交流プラザ	32名

■映画会 「わたし、生きてていいのかな」

	日時	会場	参加
第1回	10月13日（木）10時～12時	ユー・アイふくい	43名
第2回	12月4日（日）18時半～20時	鯖江市文化の館	33名

“遊ぶ”を学ぶ ～子どもがそばにいたくなる大人になるために～

■とき：3月7日（火）10時～12時　■会場：福井県立大学共通講義棟講義室
■講師：嶋村仁志氏（日本冒険遊び場協会理事）　■参加者：60名

福井市児童クラブ連絡協議会指導員研修会で、子どもNPOセンターと繋がりのある日本冒険遊び場協会理事、嶋村仁志氏の講演会がありました。今の子どもは、体験はあるが経験がない、遊ぶということは自分の人生を自分で決定する力になる、嶋村氏の話は私たちに子どもの遊びの大切さを伝えるものでした。放課後児童クラブは子どもの成長の場であり、今まさに指導員の質が求められています。子どもNPOセンターは今後もネットワークと専門性を活かし指導員研修のアドバイザーとして関わっていきたいと思います。



報告



参加者感想

子どもとかかわって8ヶ月、毎日毎日後悔、反省、自信のない毎日でしたが、何より一日何回子どもの笑顔をみられるかと心がいやされ私自身が元気になります。少々まよっている自分に今日は遊びという講習会で自分が楽しいと感じさせる時を得た事がこれからの仕事に光を見た思いがします。

「遊び」と言ってもとても奥が深いものでした。ついつい、私たち大人は危険をさけようと「ダメ」「ダメ」「ダメ」をくり返して、遊びへの挑戦をさまたげている気がします。でも、自分の子ども時代を思い出すともっと自由だった気がします。もっと、子ども目線で遊びをサポートしていける職員を目指したいです。

木田児童クラブサポート事業

雪あるかな!?遠足

森林・山村多面的機能発揮対策交付金

報告




■とき：2月4日（土）9時～12時　■会場：ふくい健康の森
■講師：森林インストラクター　大石橋節子氏　■参加：12名

待ちに待った、冬遠足。雪はすっかり融けていましたが、子どもたちは北風小僧の寒太郎になって森の中へ！自然の中にいろんな形をみつけたり、自分だけの宝物をみつけたり、子どもの感性に驚かされます。「うつくしいにおい！」と大事そうに見せてくれたのは何だろう？想像力がかきたてられました。

ふくいチャイルドライン

フリーダイヤル支援キャンペーン

■協力：富士通株式会社
■とき：3月19日（日）10時～15時
■会場：ショッピングシティ・ベル北コート
■募金総額：28,891円

子ども専用電話「チャイルドライン」を多くの人に知ってもらう目的で富士通さんの協力のもと「子ども縁日」を開催しました。“人間もぐらたたき”や“たこ焼きぽんぽん”などユニークな手作り縁日で子どもたちが1日楽しみました。縁日参加費はチャイルドラインのフリーダイヤル支援とさせていただきます。ご支援ありがとうございました。




子どもの権利条約を学ぶ ～受け手継続研修会～

■とき：5月14日（日）10時～12時　■会場：木田公民館　■参加：15名

チャイルドラインの第2回研修でNPOセンターの理念である子どもの権利条約を学びました。「聞いたことはあるけどよく知らない」という方も、概論で子どもは権利の主体であることを学び、ユニセフのカードを使ったワークショップでは子どもの権利を守るために何が必要かを1人1人がじっくりと考え、それぞれ積極的に意見を出し合いました。

参加者感想

子どもにかかわる権利条約がこんなにあるとは知りませんでした。何ができるかはわかりませんが、いつも頭に入れておきたいです。

多くの受け手の方と一緒に子どもの権利条約について考え意見を出し合えたことはとても良い時間でした。

当たり前に大切なことばかりですが、現実にはその権利が侵されていたりして胸の痛む思いです。でも改めて子どもは素晴らしい存在なのだと実感しました。

18才までの子ども専用電話 月曜日～土曜日16時～21時 ☎ 0120-99-7777

